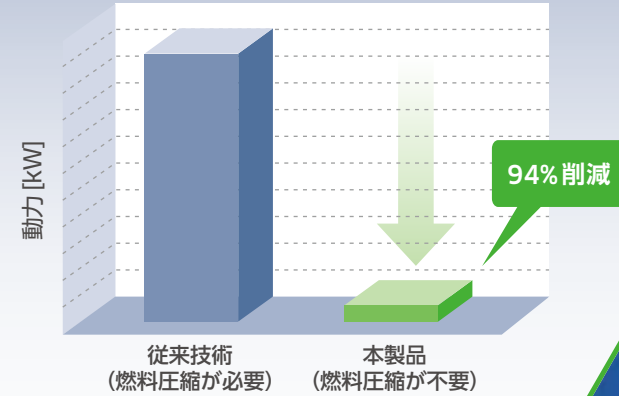


# 廃プラフラフ対応 内部循環流動床ボイラ

## 大幅な動力削減を達成

フラフ形態\*での投入により従来は必要であった燃料圧縮機動力を削減します(動力比:94%削減)。

※フラフ形態:圧縮・固形化が不要な廃棄物燃料

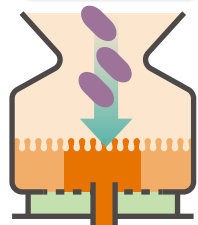


2022

Kawasaki  
Ecological Frontiers  
S class

### 固形化燃料 (RPF)

燃料圧縮 必要



かさ密度大  
自由落下で投入可能

燃焼性 大

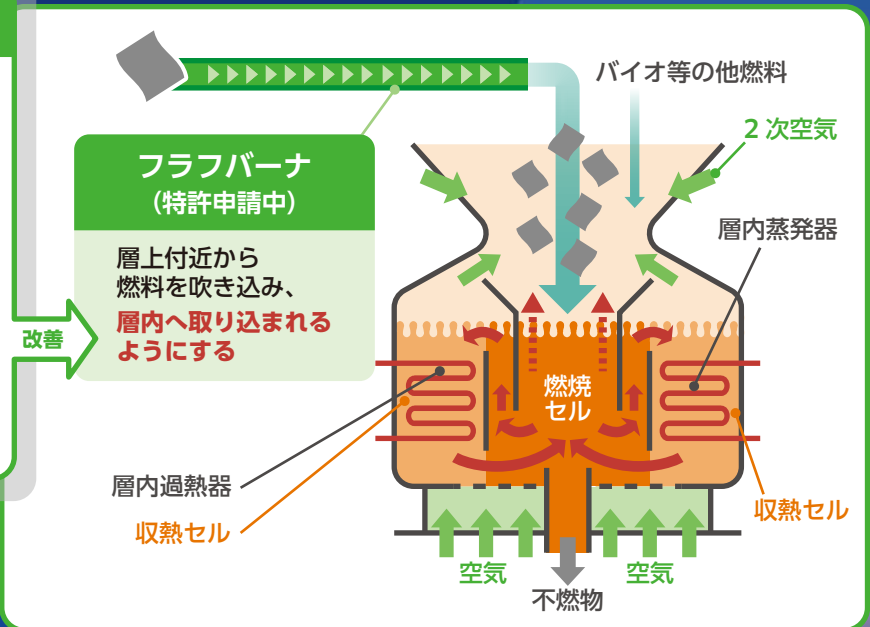
### フラフ燃料

燃料圧縮 不要



かさ密度小  
層に到達しにくい

燃焼性 小



### 製品紹介

廃棄物 (RPF<sup>\*1</sup>、RDF<sup>\*2</sup>)、建築廃材、廃タイヤ、バイオマスなど固体燃料を中心とした廃棄物燃料、カーボンニュートラル燃料等の多種燃料を使用できるボイラです。

※1. RPF(Refuse Paper & Plastic Fuel): マテリアルリサイクルが困難な古紙と廃プラスチック類を原料とした高カロリーの固形燃料

※2. RDF(Refuse Derived Fuel): 生ごみや可燃ごみ、廃プラスチックなどから作られる固形燃料

### 特長

- 廃プラ系燃料は廃棄物であり非化石燃料扱いのため、強難燃性燃料フラフ投入熱量相当分の化石燃料を100%代替
- RPF製造設備が不要となるため、設備全体での軽量化(重量比:88%削減)、メンテナンスが不要、振動・騒音を低減
- フラフバーナ(特許申請中)により、フラフ燃料使用時(かさ密度小により燃焼しにくい)においても、他燃料使用時と同様のCO、NOx発生量
- 廃棄物系燃料使用のダイオキシン発生抑制燃焼方法に従い、ダイオキシン発生を防止